

学 園

だ よ り

平成 25 年 6 月 13 日 発行
公益財団法人
中国四国酪農大学校
電話 (0867) 66 — 3651
FAX (0867) 66 — 3652
E-mail info@rakudai.ac.jp
http://www.rakudai.ac.jp
(ホームページが新しくなりました)



第 49 期生

巻頭の言葉

校長 山田 義和



今年の冬は積雪が少なく、春のおとずれが早いかと思われましたが、4月は寒い日が続く、ストーブが手放せない状況でしたが、5月に入って暖かくなり、牧草も日に日に伸び、一番草の収穫が始まる季節となりました。

蒜山高原も新緑に覆われ、多くの観光客で賑わっています。このようなか、4月9日には、第49期生27名の入学式が、大勢のご来賓のもと、盛大に挙行されました。

天候は不安定でしたが雪でなかったのが幸いでした。新入生は北は栃木県から南は沖縄県まで広範囲にわたり、大きな夢と希望を抱いて勉学に勤しんでくれるものと期待しています。2年後には卒業生の皆さんと同様に、日本の酪農を背負って頑張ってくれるものと思っています。

2年生は、校外研修が始まり、全国各地で研修中であり、一回りも二回りも大きくなって本校へ帰ってくるものと楽しみにしています。

また、前年度から全国酪農業協同組合連合会の新人研修を本校で受託して実施

しており、生産現場で指導者として活躍される全酪職員と卒業生の皆さんとの「絆」が深まることを期待しているところです。

いま酪農情勢は、長期に及ぶ世界的な経済不況による牛乳・乳製品の消費減退、円安に起因する石油製品の値上がり、米国のバイオエタノール施策や大干ばつによるトウモロコシ等の飼料原料の不作と円安の影響を受けた飼料価格の高止まり等の経済情勢と、後継者不足や高齢化並びに先行き不安による酪農等により酪農家戸数が年々減少している状況に加えて環太平洋パートナーシップ協定（TPP）の問題が加わり、非常に厳しい状況となっています。

このような状況の中で酪農に対する大きな夢と希望を抱いた多くの学生が毎年、本校に入学しています。彼

らの夢を実現させるためにも、しっかりとした酪農知識を身に付け、確固たる技術を習得するための実習や研修を実践するとともに、社会の経済情勢に即応した経営感覚に富む人材、酪農を通じた地域社会への貢献ができる健全で良識のある人材の育成に、引き続き、全職員一丸となって力を注いで行く所存です。

本校は、本年4月1日付で公益認定を受け、公益財団法人中国四国酪農大学校と改称して新たな一歩を踏み出しました。西日本唯一の酪農の専門技術者教育機関として、構成県（中国四国各県及び兵庫県）からも引き続き、講師の派遣等の人的支援を受けるなど、経営基盤の強化を図りながら健全な運営に努めていきますので、引き続きご支援とご協力をよろしくお願ひします。

今年の蒜山の春は遅かったですが、その分、春の訪れに心がうきうきしてきました。酪農業界にも必ず春がやってきます。それまでは、お互いに情報交換しながら一致団結して頑張りましょう。

卒業生の皆さん、初心を忘れないためにも、是非、学校を訪問してください。お待ちしております。





卒業生
酪大を卒業して

第三十一期生

筒井 大悟

時がたつのは本当に早い!!
酪大を卒業してあつと言う間に16年にもなりました。

卒業して以来在学中を思い出すと、もっとと真面目に勉強しておけば良かったなあと思う後悔の日々です。(笑)

当時は酪大に入学したものの牛にはまったく興味が無く、職員の方々、同期生のみんなには大変御迷惑をおかけしたと思います。

そんな学校生活の中でも一番の思い出は校外研修で2ヶ月間行ったオーストラリアでの実習です。

初めての試みで段取りも悪く、向こうの情報もほとんど無い上、国内での実習でも十分厳しいのに、言葉の通じない所ではたして大丈夫なのか、大変不安な中出発した事を今でもよく覚えています。

予想どおり、向こうでの仕事、

生活は言葉の壁に阻まれかなりツライものでした。(笑)
お世話になった牧場はホルスタインとジャージー約700頭の放牧酪農で、日本では考えられない飼養管理に圧倒されました。

今でこそ国内でも大規模なロータリーパーラーを見る事ができますが、当時初めて目にして作業した50ポイントのロータリーパーラーのインパクトは強烈なものでした。

オーストラリアでの実習もふり返ると楽しい思い出であり、非常に貴重な経験をさせて頂いたと心より感謝しております。

現在では交換留学の制度もなくなってしまう様で非常に残念に思います。

しかしながら若い学生さんには、今後いろいろな多くの機会があると思います。海外実習等に限らず興味がある事には是非とも積極的に参加し、多くの経験をしたいと思えます。

私も平成18年に牛舎を規模拡大し、はや6年が過ぎましたが、今だまだまだ大変で思い通りに行かない事ばかりですが、そんな時は過去の経験を思い出したり、将来の夢を考えながらなんとか頑張っております。

多くの学生さんに卒業後も

酪農業界に携わって頂き、一緒に頑張って行きたいと願っています。

最後になりましたが、来年は学校設立50周年という節目の年になるようです。記念行事も考えておられるようで、その際には多くの関係者の方に参加頂き、お会いできる事を今から楽しみにしております。

在校生
二年生になつて

第四十八期生

稲福 未来

1年前の4月の蒜山にはまだ雪が残っていました。雪が全く降らない沖繩から飛行機、新幹線、電車、バスを乗り継いでやってきて、方言や感覚の違う都県の人たちと共に、これからここで生活していくなんて全然実感がわかないまま、酪大生活はスタートしました。

酪農について基本的な知識もない、牛を扱うことにも不慣れな私は、不安を感じる反面、毎日を大好きな動物と過ごすことができることに期待を抱えながら実習を楽しみにしていました。実習が始まってからは、牧場の職員や先輩方に指導頂いた

り、実家が牧場経営であったり、農業系科出身で私より知

識や能力のある同期生からアドバイスをもらいながら、マイペースながらも少しずつできることを増やそうと、必死に刺激的な毎日を送っていました。2年生になった今では、まだまだ未熟ながらも成長できたと思うし、何より牛がも

っと好きになれました。実習が主なカリキュラムでありながら講義も充実しており、学校外の講師に教えて頂く事も多く、学ぶ範囲が広がることで自分自身の視野を広げることができたのではないかと思います。夏にはトラクター、小型建設機械、秋には牽引車両、冬にはフォークリフトなどの運転免許や作業免許を取得することができ、人工授精師の資格も取れました。

生活面では個性の強い同期生との生活で実習同様驚きや発見が多く、集団での共同生活も勉強になっていきます。地元を離れて寂しくなることもあったけれど、こんなに楽しい仲間と先輩、職員の先生方や、毎日美味しいごはんを作ってくれる食堂のおばちゃん、親切に受け入れてくれるバイト先の方、そして離れていても連絡を取り合える家族や地元の友達、たくさんの人達の支えのおかげで、充実した実りのある1年間を送るこ

とができました。

また、蒜山の自然は本当に素晴らしくて、何度も散歩やサイクリングに出かけては季節を満喫し、いっぱい元気をもらいました。感謝ばかり!

先輩が卒業された3月の後半からは学校にいるのは私たちだけになり、校内研修が始まりました。学校の牧場にいる時間が長くなり、牛をより身近に感じられるようになりました。1年生の頃にはできなかった作業も増え、職員から教わることも増えました。

4月になり1年生が入学してきてからは、指導が苦手な私ですが、自分が学んだことはできるだけ1年生に伝えてあげようと頑張っています。また、蒜山で開催されたジャージースプリングショーにも参加し、初めての共進会出場で戸惑うことも多くありましたが、これも周りに助けもらいながらやりとげることができ、良い経験ができたと思っております。

忙しくても濃い校内研修になりました。そしてもうまもなく校外研修が始まります。これから校外に出て学校に戻ってくる11月までの半年間、どんなことがあるか分からないけれど、自分ができる限りの力でやり遂げていきたいと思えます。

第一牧場だより



初夏の候、同窓会の皆様にはお元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。

第一牧場は今年度から、長綱場長、樋口技師に、新採用の新宮技師を加え、三人で担当しております。

さて、昨年静岡で開催された第8回全日本ブラック&ホワイトショウには本校から2頭の未經産牛を出品することができました。本校にとっては岡山全共以来の全国大会であり、不安と緊張の中での出品でありましたが、蒜山地区をはじめ県内外の多くの関係者の皆

様に支えられ全国の舞台に立てたことにより、牛作りの楽しさ、難しさ、何より

牛の魅力をより一層感じることができた素晴らしい経験をさせていただきました。また、同窓会からのご

支援でジャンパーや横断幕を作成させて頂き、会場での本校のPRもすっかりおこなってまいりました。ありがとうございます。

第一牧場では、今年3月に乾乳牛舎が完成しました。従来は旧搾乳牛舎をフリーバーンに改造し、乾乳牛や初妊牛を管理していま

したが、作業機械が入らないことや、股関節脱臼などの運動器系の事故が多かったことなどから改善を計画していたところ、この度国の補助を受け、新牛舎を新築することができました。

これにより牧場実習のより一層の充実をはかるとともに、生産性の向上ならびに牛作りに努力して参りたいと思えます。

このように牛も牛舎も少しずつ変わりつつある第一牧場です。近くにお寄りの際は是非本校に足を運んで頂ければ幸いです。



全日本 BW 出品牛
「カヤベ クラリス スタリオン ティアラ」



同窓会のご支援によりジャンパーを作成しました。ありがとうございます。

第2牧場だより



職員の異動

昨年度に引き続き芦田場長の下、池田主任、村田技師に加え、内部異動により新たに加わった山田技師の4人体制（週1で朝の当番を岸戸副校長）で日々の作業を行っています。新たに入学した1年生は27名と多く、また今年度も「全酪連」に新規採用された職員のうち8名が研修を行っており、連日とてにぎやかに実習作業を行っています。が、怪我をしないように気をつけたいものです。

乳量・乳質の維持

昨年度の搾乳頭数は平均85頭程度で生乳出荷量は1日1700kg前後を維持することが出来ました。その結果、1頭当たり20kg程度、搾れるようになりました。今年度の目標としては、これを維持したまま昨年度同様、体細胞数は1桁を目指しつつ乳成分を維持していきたいと考えています。

牧草・草地

昨年度の1番草は天候が思わしくなく良いロールを収穫することが出来ませんでした

したが、今年度は良いロールが多く出来るよう頑張りたいところです。しかし今年度の雪解けは早かったものの気温が上がらず牧草の生育が思わしくありません。是非とも収穫時には良い天候になってもらいたいものです。

ふれあい牧場

今年度から、ふれあい牧場に経産牛を数頭ですが放牧を行うようになりました。また、ふれあい牧場の隣にタンチョウの施設ができ、2羽のタンチョウが飼育されています。本校のジャージー牛とともに蒜山地区の見所として、見学者が増えればと期待しているところでございます。

最後になりましたが、蒜山におこしの際は第2牧場に

もお立ち寄りください。職員・ジャージー牛ともに心よりお待ちしております。



ジャージーの放牧とタンチョウの小屋

職員紹介

◎校長 山田義和
 ◎副校長 岸戸武士
 (総務課長兼務)

総務課 係長 有富英美

教務課 教務課長 関 哲生
 技師 高見奈々
 臨時職員 法花千恵美
 調理員 谷口育子
 臨時職員 小椋麗子
 臨時職員 西田 都

◎第一牧場 長綱則之
 ◎技師 新宮由子
 臨時職員 樋口照夫

◎第二牧場 芦田草太
 主任 池田良弘
 技師 村田崇浩
 技師 山田祐季

◎ 内部異動者
 ◎ 新職員



副校長(総務課長) 岸戸 武士

酪大への勤務は、平成9年〜13年の5年間以来で、12年ぶりとなります。

今年から、学校の名称もこれまでの「財団法人」から「公益財団法人」へと変更になり酪農教育の重要性が一層高まりました。

総務課担当で、全くの不慣れた分野ではありますが、頑張っていますのでよろしくお願ひします。

第一牧場技師新宮 由子

皆さんはじめまして。

京都府出身で、3月までは高知大学で高知系褐毛和種に関する研究をしていました。牛に関する仕事に就くことが出来て本当に嬉しいです。蒜山の気候など戸惑うことも多く、まだまだ未熟ですが、職員、学生の皆さんのなかで多くのことを学んでいきたいです。よろしくお願ひします。

酪 大 行 事 い ろ い ろ



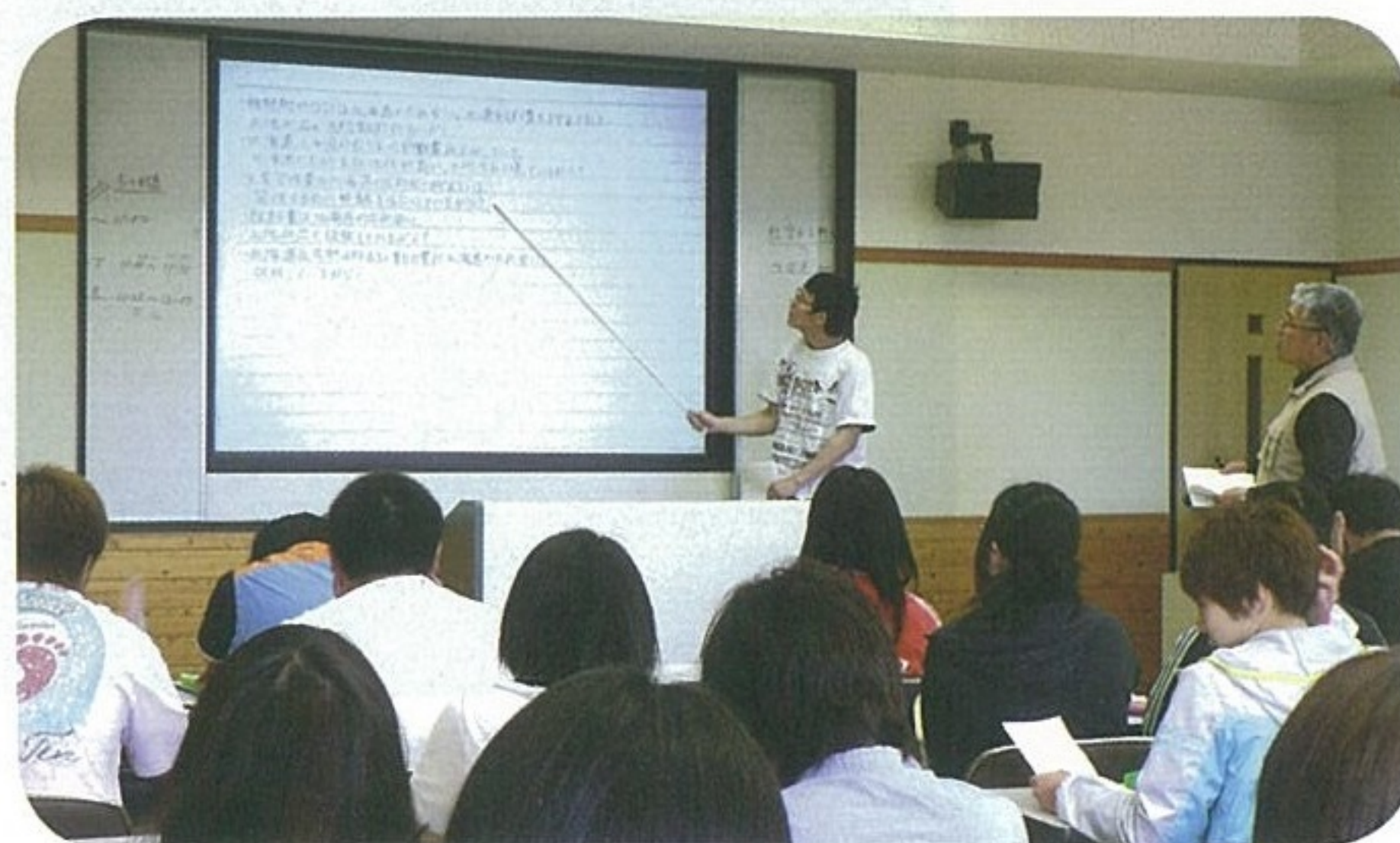
新乾乳牛舎完成 (第1牧場)



全日本 BW 出品



情報処理室改修



視聴覚教室改修

CHUGOKU SHIKOKU COLLEGE OF DAIRY FARMING

平成
26年度

学生募集

■推薦入試

受付期間:平成25年9月2日~10月4日

試験日:平成25年10月16日(本校会場)

10月17日(岡山会場)

■一般1次募集

受付期間:平成25年11月5日~11月29日

試験日:平成25年12月13日

■一般2次募集

受付期間:平成26年1月17日~2月24日

試験日:平成26年3月7日

動物とのふれあい、
仲間との楽しい時間。
大自然の中、一生に残る
2年間を過ごしてみませんか?

2年間で酪農経営力を
身につけます!

酪農に必要な資格が
取得できます!

奨学金の制度も
あります!

平成25年
オープンキャンパス

第1回予定日
7月24日(水)・25日(木)

第2回予定日
8月29日(木)・30日(金)

公益財団法人

中国四国酪農大学校

SEARCH!

中国四国酪農大学校

GO!

〒717-0604 岡山県真庭市蒜山西茅部632 TEL (0867) 66-3651 FAX (0867) 66-3652